



西会津のある暮らし

File no.5



西会津は、
出会う人たちが面白すぎるんです

ニューヨークから西会津町へ移住したウィリアムさんと榎崎さん。元呉服店だった空き家を改修したデザインスタジオとオルタネティブスペース「バーバリアンブックス」は、近所の子供達や国内外から様々な人が集まる場所になっています。

ニューヨーク州立ファッショニング大学のグラフィックデザイン学科へ留学し、そこでウィリアムさんと出会った榎崎さんは、卒業後に二人でITWSTというグラフィックデザインユニットを立ち上げ、大手のデザインの仕事に携わっていました。ですが、もともとクライアントの顔が直接見える距離で仕事をしたかったという理由、ベルギーのアーティストインレジデンスに入る機会があり、そこで地方の文化に興味を抱いたそうです。日本でもそういう場所がないかと探したところ、西会津国際芸術村の存在を知ったそう。「はじめに西会津町にきた時は、二人ともカルチャーショックを受けました。今まで見たことや体験したことのない、日本の田舎、という感覚で、全く予測のつかない世界でした」実際に訪れてみて、その雰囲気を感じた二人は、ア

ティストとして1年間の滞在を決定。アートプロジェクトの事務局なども兼任しながら、翌年、ついに西会津町に移住しました。

「西会津は、出会う人たちが面白すぎるんです」というお二人。まず、農家のライフスタイルがとても刺激的で、新しいと感じるそう。「土がとても近くて、都会に比べると、泥とか、なにか汚いものだという感覚があったが、ここではそんな意識にはならなくて、それが心地いいです。本当に、毎日知らないことだらけで、とてもたくさんのお話を学んでいます。そして、発見すればするほど、やりたいことが本当に沢山出てくるほどになって、全部でできないことに苦労しています(笑)」

西会津町に住んでから価値観が変わり、作る作品も変わったというお二人に、今後の展望を聞いてみました。「これからは、もっとうるんな印刷ができるようにしたいし、家のリノベーションもやりたい。うちは、毎日のように近所の子供達が集まってくるので、できるだけうるんな人を巻き込みながら、子供達を大切にすることを考えています」

榎崎 萌々恵

Momoe Narazaki

埼玉県所沢市出身。イラストレーター／グラフィックデザイナー。2016年から西会津町在住。イラストレーターである父親の影響でイラストレーションをずっと描き続けている。ITWSTでの活動のほか個人名でも活動している。

ウィリアム・シャム

William Shum

アメリカニューヨーク出身。マンハッタン北数マイルの郊外に生まれ、幼い頃よりスケートボード、音楽、映画、本が好き。興味のあること、パッションの全てを常にカタチにしていきたいと思っている。